

研修会名	(日本公認心理師協会) アディクション臨床研修会								
テーマ	— 公認心理師として、ぜひおさえておきたいこと —								
企画委員会	アディクション臨床委員会								
	委員長:信田さよ子、副委員長:三原聡子、委員:平野 学								
企画主旨	<p>3年前、公認心理師の第1回試験でアディクションに関する問題が複数出された時の感慨は今でも忘れられない。我々に対する社会からの要請に応える出題だったと思う。1対1の心理臨床を軸としがちだった我が国の臨床心理学の伝統のなかで、アディクションはずっとマイナーかつマージナルであり続けてきた。しかし近年起きている地殻変動がもっとも顕著に表れているのがアディクション領域だろう。コロナ禍における飲酒問題の深刻化など、社会の変化に伴って心理職に対する要請と期待は大きくなるばかりである。それに対してきちんと応じることが公認心理師としての責務であろう。</p> <p>またアディクションは医療にとどまらず、教育や福祉、司法等において横断的に出会わざるを得ない問題であり、いっぽうで臨床的援助・支援においては、本人・家族、専門家・当事者といった多層的視点も要請される。</p> <p>今回の研修会では<公認心理師として、ぜひおさえておきたいこと>として午前と午後の2つの柱を立てた。午前は歴史をたどることで援助モデルの変遷を知り、この問題全体像を把握していただくために、午後はあらゆる世代に広がり現場で苦慮することの多いゲーム障害に関し臨床的な手がかりを提示するために企画した。参加者のみなさまに役立つ時間になればと願う。多くの方々のご参加を期待したい。</p>								
開催日	2021年	1月	16日	(土)	時間	開始	10:00	終了	16:00
対象者・定員	公認心理師					定員	200	名	
【プログラム】									
午前の部 10:00~12:30	テーマ	アディクション臨床の全体像を知るために							
	講師	信田さよ子							
	所属	原宿カウンセリングセンター							
	内容	アルコール問題を基本として発展してきたアディクション臨床だが、近年ではメディアで話題になる薬物問題、そしてカジノ法案の争点となったギャンブル依存、そして不登校ともつながりの多いゲーム依存など、心理専門職として喫緊の課題となっている。40年以上にわたるアディクション臨床経験にもとづき、どのような歴史と変遷を経てきたかをお話しし、医療から司法にまたがる全体像をお伝えしたい。また当事者(本人)はしばしば援助希求の動機に乏しいのが通例であり、家族を視野に入れた援助が欠かせない。アダルト・チルドレンや共依存といった言葉を生み出したのもアディクション臨床である。これらも含めて公認心理師としての実践に役立つお話をしたいと思っている。							
12:30~13:30	(昼休み)								
午後の部 13:30~16:00	テーマ	明日から臨床現場で役立つゲーム障害の基礎と対応							
	講師	三原聡子							
	所属	国立病院機構久里浜医療センター							
	内容	「ゲーム障害」がICD-11に収載されることが決定され、ようやく予防対策や医療システムの構築が進められはじめた矢先、コロナウィルス感染拡大防止のための休校によるゲーム使用時間の長時間化、香川県の条例に対する反対運動など、ゲーム障害を取り巻く情勢は日々変化している。しかし、臨床現場、特に学校や、児童思春期を専門とする医療機関で働く心理師にとって、ゲーム障害はすでにそこにあり、日々迷いながら対応に追われる問題になっているのではないだろうか。当日は、どこからがゲーム障害なのか、要因は何なのか、ゲーム障害の人に対してできることは何か、どのように医療機関にオファーしたらよいか、といった、明日からすぐに臨床現場で使える情報をお伝えしたい。今後も形をかえて現れてくるであろうゲーム障害関連問題において、心理師に期待される役割、心理師だからできることについて、意見交換も交えてお伝えできればと考えている。							
総合司会：平野 学 (平野カウンセリングオフィス、委員)									

注)本研修は日本公認心理師協会が今後認定を予定している『専門認定研修』システムにおける研修ポイントとする予定です。また、学校心理士、臨床発達心理士の研修ポイント、臨床心理士の参加者が3割以上の場合の臨床心理士研修ポイントをそれぞれ申請予定です。